

【教育学専攻課程博士学位申請論文提出の要件ならびに専攻内審査について】

専攻の内規に従って審査がなされるので、指導教員ならびに専攻主任に確認して準備を進めること。内規の概要は次の通りである。

[論文審査を受ける学生の資格]

- ①手続きが開始される年度の末日において所定の年限以上在籍し、所定の単位を取得した者、または取得見込みの者。

[専攻内審査準備]

- ①専攻主任を経由して専攻博士後期課程委員会に対し、専攻内審査準備申請を行う。
 ②専攻内審査準備申請は、随時行うことができる。
 ③専攻内審査準備申請のための条件は、以下のすべてを満たすこと。
 (1) 申請の時点で、博士学位申請論文のテーマに関連する論文が少なくとも2篇以上（うち、少なくとも1篇は査読付学術雑誌であることが望ましい。）掲載されていること。
 (2) 1外国語の能力についての証明。
 (3) 指導教員による推薦書。
 ④専攻内審査準備を認められた学生は、各学期ごとに指導教員に論文作成の進捗状況を文書で報告する。

[専攻内審査]

- ①指導教員は、学生の博士学位申請論文の原稿が整い、審査を行うことが適当であると判断したのち、専攻主任を経て専攻博士後期課程委員会に対し専攻内審査委員会の設置を申請する。
 ②申請の期限は、7月10日と1月15日の年2回。ただし、申請期限日が休日にあたる場合は、その前日を期限日とする。
 ③学生は博士学位申請論文4部、博士学位申請論文の概要4部を専攻主任を経由して専攻博士後期課程委員会に提出する。部数については追加が求められることがある。
 ④専攻内審査委員会は、博士学位申請論文として適切であるか否か、本審査に移行すべきか否かの審査を行う。
 ⑤専攻内審査委員会は、審査の途中の段階で、論文報告会を本専攻教員・本専攻在籍学生に公開で開催する。
 ⑥専攻内審査委員会は、必要な際は、学生に対し博士学位申請論文の加筆修正を求めることができ、加筆修正された論文に基づいて審査することがある。
 ⑦審査の結果、本審査に移行することが適当であると認められた場合は、研究科としての審査に進むことになる。これ以降は、教務課の指示に従うこと。

[専攻内審査の基準]

- ①本審査への移行が適当であるとする際には、この基準をクリアしていることが最低限必要である。
 (1) 課題の設定が明確であり、その研究意義を十分に示していること。
 (2) 適切な研究方法を十分に検討し、用いていること。
 (3) 先行研究を十分に検討していること。
 (4) 論証が十分に精緻であること。
 (5) 研究に十分な独創性があること。
 (6) 研究でやり残したことについて自覚的であり、今後の研究の発展について示していること。

さらに研究科の基準として、上記の専攻内での審査基準に加えて、研究者として自立して研究活動を行うとともに、高度な専門職に必要な研究能力と資質、及びその基礎となる豊かな学識を有していることが求められる。

附則

すでに博士後期課程を退学し、再入学により博士学位申請論文を提出しようとする者においては、これに準ずるものとする。

〈B. 心理学専攻〉

心理学専攻博士後期課程の履修

1 年次		2 年次		3 年次	
研究指導教員が指定する専門科目の履修		研究指導教員が指定する専門科目の履修		研究指導教員が指定する専門科目の履修	
研究指導Ⅴ (2 単位必修)	研究指導Ⅵ (2 単位必修)	研究指導Ⅶ (2 単位必修)	研究指導Ⅷ (2 単位必修)	研究指導Ⅸ (2 単位必修)	研究指導Ⅹ (2 単位必修)

▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲
 研究指導 研究指導 研究指導 研究指導 研究指導 研究指導 研究指導 研究指導
 教員決定 ※「研究報告」 ※「研究報告」 ※「研究報告」 ※「研究報告」 ※「研究報告」 ※「研究報告」 ※「研究報告」 ※「研究報告」
 「博士学位申請論文審査」および「最終試験」1 外国語の認定に合格

※「研究報告」は、“心理学研究法特別演習Ⅰ・Ⅱ”の授業時において実施するので、年次毎に履修することが望ましい。

なお、「学位申請論文に関する研究を、関連する学会で発表していること」が課程博士学位取得要件であることに留意すること。

【心理学専攻課程博士学位申請論文提出のための要件および専攻内審査会について】

I. 博士学位申請論文提出のための要件

1) 専攻内での発表

専攻内で博士の学位を申請しようとする研究に関して、専攻教員の指導を受けていること。

2) 学会発表

学位申請論文に関する研究を、関連する学会で発表していること。

3) 研究業績（研究歴）

博士学位申請論文に関連する論文で、学会誌において査読を経て受理された論文が2 篇以上あること。なお、内1 篇が専攻内審査会において、特に高いレベルと認められる学会誌に掲載または受理された論文である場合には、この限りではない。

4) 外国語能力、専門知識

申請時に、本専攻博士後期課程在学中であることをもってこれにかえる。

5) 指導教員による推薦

指導教員による推薦を受けていること。

II. 博士学位申請論文提出のための手続き

1) 専攻内予備審査委員会

(1) 専攻内予備審査委員会開催の申請の要件

I. の博士学位申請論文提出のための要件をすべて満たしていること。

(2) 申請に際しての提出書類

①学位申請論文の概要

②関連する学会誌等に掲載されたあるいは受理された論文（コピー可）

(3) 専攻内予備審査委員会の構成

指導教員は申請者がI. の要件をすべて満たしていることを確認した上で、学位申請論文の申請に関して申請者を専攻主任に推薦する。指導教員からの推薦を受けて、専攻主任は専攻内予備審査委員会（以下、予備審査委員会という）を招集する。予備審査委員会の構成員は4 名とし、専攻主任、指導教員、専攻教員2 名からなる。なお、必要に応じてさらに専攻教員1 名を追加することができる。

(4) 予備審査委員会の開催

予備審査委員会は提出された書類に基づいて審査を行う。なお、必要に応じて申請者に説明を求めることができる。

(5) 審査結果の報告

専攻主任は1 ヶ月以内に論文申請の適否に関する予備審査委員会の審査結果を心理学専攻分科会に報告し、分科会において最終決定がなされる。

2) 専攻内審査会

- (1) 専攻内審査会開催の申請
予備審査委員会の決定により申請が認められた場合には、指導教員はすみやかに専攻内審査会（以下、審査会という）の開催を専攻主任に申し出る。
- (2) 審査会の日程
審査会の開催申請の申し出期限は、8月末と2月末の年二回とし、審査会は原則として9月と3月に開催する。
- (3) 審査会の開催
 - ①発表者は、8,000字程度の博士学位申請論文要約と、関連する学会誌等に掲載されたあるいは受理された論文の目録を作成し、発表日の2週間前までに専攻内の全教員に配付する。
 - ②審査会においては、申請者は1時間程度の発表を行い、その後、質疑応答を行う。
 - ③審査会は、発表会後に下記の審査基準にもとづいて協議を行い、博士学位申請論文提出の適否を判断する。判定の結果は、指導教員を通じて申請者に伝えられるものとする。

審査基準

1. 研究の意義
 - ・文献研究を十分に吟味しているか。
 - ・その問題を取り上げることの独自性が説得的に示されているか。
 - ・知見の有用性、学界・社会への貢献が期待できるか。
2. 研究方法
 - ・問題設定に対して研究方法は妥当か。
 - ・研究の量は十分か。
 - ・分析方法は適切か。
 - ・結果に対する考察は適切か。
3. 論文全体
 - ・研究の配列、全体の構成に論理の一貫性があるか。
 - ・これまでの研究に独自の新たな知見を提示しているか。
 - ・研究の限界（残された問題）、今後の発展や可能性を把握しているか。
- ④審査会開催の申請が受け入れられなかった者、また、審査会の審査で不適とされた者は、改めて申請を行うことができる。

さらに研究科の基準として、上記の専攻内での審査基準に加えて、研究者として自立して研究活動を行うとともに、高度な専門職に必要な研究能力と資質、及びその基礎となる豊かな学職を有していることが求められる。

3) 博士学位申請論文の提出

専攻内審査会で博士学位申請論文提出が適当と判断された場合には、研究科教授会に学位の申請を行う。論文の提出先、および後の審査過程は、青山学院大学大学院学位規則に従うものとする。

附則

すでに博士後期課程を退学し、再入学により博士学位申請論文を提出しようとする者においては、これに準ずるものとする。

3. 授業科目配置表

[教育学専攻]

(2022年4月1日現在)

	授 業 科 目	区 分	単 位	備 考
専 門 科 目	キリスト教教育史特別演習Ⅰ	演 習	2	
	キリスト教教育史特別演習Ⅱ	演 習	2	
	保育学特別演習Ⅰ	演 習	2	
	保育学特別演習Ⅱ	演 習	2	
	障害児臨床教育特別演習Ⅰ	演 習	2	
	障害児臨床教育特別演習Ⅱ	演 習	2	

専 門 科 目	臨床医学の小児教育特別演習Ⅰ	演習	2	
	臨床医学の小児教育特別演習Ⅱ	演習	2	
	教育行政学特別演習Ⅰ	演習	2	
	教育行政学特別演習Ⅱ	演習	2	
	高等教育特別演習Ⅰ	演習	2	
	高等教育特別演習Ⅱ	演習	2	
	教育社会学特別演習Ⅰ	演習	2	
	教育社会学特別演習Ⅱ	演習	2	
	学校教育学特別演習Ⅰ	演習	2	
	学校教育学特別演習Ⅱ	演習	2	
	学習メディア特別演習Ⅰ	演習	2	
	学習メディア特別演習Ⅱ	演習	2	
	情報教育特別演習Ⅰ	演習	2	
情報教育特別演習Ⅱ	演習	2		
生涯学習特別演習Ⅰ	演習	2		
生涯学習特別演習Ⅱ	演習	2		
国語教育特別演習Ⅰ	演習	2		
国語教育特別演習Ⅱ	演習	2		
理科教育特別演習Ⅰ	演習	2		
理科教育特別演習Ⅱ	演習	2		
身体教育学特別演習Ⅰ	演習	2		
身体教育学特別演習Ⅱ	演習	2		
芸術文化教育特別演習Ⅰ	演習	2		
芸術文化教育特別演習Ⅱ	演習	2		
教育学特別演習Ⅰ	演習	2	2022年度休講	
教育学特別演習Ⅱ	演習	2		
研 究 指 導	研究指導Ⅴ	演習	2	1年次必修
	研究指導Ⅵ	演習	2	
	研究指導Ⅶ	演習	2	2年次必修
研 究 指 導	研究指導Ⅷ	演習	2	
	研究指導Ⅸ	演習	2	3年次必修
	研究指導Ⅹ	演習	2	

〔心理学専攻〕

(2022年4月1日現在)

	授 業 科 目	区 分	単 位	備 考
基礎科目	心理学研究法特別演習Ⅰ	演習	2	
	心理学研究法特別演習Ⅱ	演習	2	
専門科目	Advanced Academic Writing and Presentation for Psychology	演習	2	2022年度休講
研 究 指 導	研究指導Ⅴ	演習	2	1年次必修
	研究指導Ⅵ	演習	2	
	研究指導Ⅶ	演習	2	2年次必修
研 究 指 導	研究指導Ⅷ	演習	2	
	研究指導Ⅸ	演習	2	3年次必修

4. 研究指導

〔教育学専攻〕

(2022年4月1日現在)

担当者	専門分野	備考
大森 秀子	アメリカ教育史、キリスト教教育史	
小木 曾一之	応用生理学、バイオメカニクス、体育科教育学	
小針 誠	教育社会学、教育社会史	
杉谷 祐美子	高等教育論、教育社会学	
杉本 卓	情報教育論、言語学習論	
野末 俊比古	図書館情報学、情報教育論、情報メディア論	
長谷川 祥子	国語科教育学	
早坂 方志	特殊教育学、肢体不自由教育、重複障害教育	
樋田 大二郎	学校教育学、ホリスティック教育、教育制度	
平賀 伸夫	理科教育学、総合学習論、授業研究	
福元 真由美	幼児教育学、保育史、保育カリキュラム論	
古荘 純一	小児科学、小児精神神経学、小児保健学	
柳田 雅明	生涯学習論、成人教育論	
山本 珠美	社会教育学、教育行政学	
山本 美紀	音楽学、芸術文化教育論、キリスト教文化	

〔心理学専攻〕

(2022年4月1日現在)

担当者	専門分野	備考
遠藤 健治	社会心理学、心理測定統計論	
小俣 和義	臨床心理学、心理査定学	
北村 文昭	臨床心理学、環境心理学	
坂上 裕子	生涯発達心理学	
繁榊 江里	社会心理学、対人コミュニケーション	
葉師 神玲子	認知心理学、人間情報学	